

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900634		
法人名	株式会社 アイミ		
事業所名	グループホーム ソブエピア (櫻の間)		
所在地	愛知県稲沢市祖父江町祖父江宮西58-4		
自己評価作成日	平成28年1月4日	評価結果市町村受理日	平成28年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成28年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑が多く自然が満喫できる場所にあり、平屋造りのゆったりとした空間で生活できるかんきょうにある。『家庭的な雰囲気の中で笑いと楽しみのある生活をします。いつも私たちがそばにいます。出来ることを増やしましょう。』という理念を心にひとりひとりの希望に応じた生活が出来るよう日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は転倒リスクやヒヤリハットをきちんと分析し、事故報告を書くことで次なる支援方法を話し合っている。現況をなるべく維持し、1日1日を笑いや楽しみをもって過ごしてもらえるよう利用者一人ひとりの気持ちの理解に努め、対応している。管理者の交代や職員の入れ替わりがあったが、職員はチームワーク良く個別の支援に取り組みながら、体制づくりへの基礎を構築し、少しずつ気持ちの余裕ができてきた。長年の課題であった運営推進会議を年6回開催し、現況の理解と制度改定やマイナンバー制度、確定申告における医療費控除等家族の不安解消への説明や、質疑応答の場が設けられ、市役所との協力体制が確立されている事がうかがえる。次年度に向け、ボランティアや家族との繋がりを拡大し、豊かな自然環境を生かした取り組みにも期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後に管理者と職員で理念を唱和している。施設内の見やすい所に理念を掲示し『家庭的な雰囲気の中で安心して暮らせる』ホームづくりに取り組んでいる。	職員は理念を理解し、自宅にいた時の暮らしぶりを考えて「今日も1日楽しかった」と思ってもらえるよう寄り添い、言葉がけをしながら利用者を支援している。笑いがあり、個々に居場所を持ち、時にはスキンシップをすることで利用者の立場に立った介護を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に住宅がなく地域の方々との繋がりがなかなか築けず、近隣の喫茶店やボランティアの方の訪問ぐらいたったが、定期的な運営推進会議を通して町内の方と顔なじみになっている。	町内会に加入により、地区の情報を得ることができ、畑の活用で地域の人との交流を大切にしている。絵手紙、歌謡ショー、大正琴等のボランティアや保育園児来園が利用者の楽しみや笑顔に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への貢献としての取り組みとしては、運営推進会議を通じて困りごとの相談など、気軽に声を掛けていただいたり、訪問していただくよう呼びかけをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内の見学・説明を行っており、理解や支援のきっかけになっている。施設での取り組みを説明し意見交換の場を設けている。出席できなかった職員に関しては会議録のないようを確認してもらっている。	消防訓練、介護保険制度、10周年記念行事、マイナンバー制度の説明等毎回テーマを設け、家族会も兼ねる工夫をしながら開催している。事業所の現況や入退所、事故や病気、入院に関する報告に併せ、質疑応答や意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の中には生活保護の方等みえるため、市との連携は欠かせない状況である。必要に応じて市の担当者へ相談し助言をいただいている。運営推進会議にも毎回出席いただいている。	更新手続き等で担当者を訪問し、利用者やホームの様子を伝え、対応方法を相談したり、助言を得られる関係づくりが構築されている。地域包括支援センターとは空き情報などを伝えることで、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、朝の2時間のみで安全上の問題で開門できないようにしている。身体拘束については職員全員が認識しており行わないケアを実践している。やむを得ない理由で身体拘束を行なう場合はご家族様に説明同意を頂き、検討し解除するよう努めている。	職員は身体拘束の内容と弊害を正しく理解しており、朝のみ門扉を施錠している。安全確保の面から職員はベッドと窓の間にクッションを設置する工夫で転倒を防止し、見守りで自由な暮らしを継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、日頃からそのような行為に関する話し合いを行なっている。身体的な虐待以外にも言葉の虐待などある為誤解を与えてしまう行動がないようお互い注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については学ぶ機会がなく講習に参加し知識を得なければならないと感じている。職員に関しては制度についての理解や知識がほとんどない状態である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族には十分な説明し納得をしていただいた上で入居していただいている。入居後の起こりうるリスクについても説明し理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様へは家族会や面会時に気軽に話せる雰囲気作りを努めている。玄関に意見箱を設置しているが、現状家族様と直接対話で解決できている。	家族の面会時には管理者や担当職員が状況を話し、要望や意見を聞き取っている。職員へのねぎらいの言葉をかけられることもあり、出された意見は職員間で話し合い、迅速な対応に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて、個別面談を行い直接の意見や要望を聞き、業務に反映していくよう努めている。	職員は月1回のミーティングで利用者の状況を把握し、ヒヤリハット案件に関して対応方法を話し合い、結果を申し送りにまとめ、介護の統一を図っている。管理者は個別懇談で職員の意見や要望を聞き取り、職場環境の向上や情報の共有に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況については職員の要望や希望休など汲み取り勤務表の作成等行なっている。が夜勤職員の不足により夜勤専属バイト等雇用し対応している。それでも満足度等、満たされていない職員が居るのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り研修に参加してもらったり、勉強会を開催しスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉施設との繋がりができ、定期的に意見交換を行なっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様と面談を行い、会話の中からその方のライフスタイルを知り、その中で要望等も把握し理解し安心していただけるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が入居の申し込みにみえた際、グループはどのようなところであり、どのようなサービスを提供しているのか説明した上で、施設の見学をしていただき、今不安に思っていること等について支援していくことをお伝えする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、何に困っているのかを理解し、ご本人様の今の状況で必要なサービスをの提案をし、必要に応じて他のサービスについての提案をしていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活を共にしているということを実感していただけるよう、ご本人様の生活スタイルを把握し、出来ることはご自身でしていただき、出来ないことは職員がサポートしてくれる人、と思っただけのように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に面会へ来られる方にはその都度お話ができるが、なかなかみえない方には家族会や定期的な電話での対応や毎月のおたよりにて、生活状況をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スーパーへの買い物や喫茶店、病院、地元の施設へは利用者を誘い知人や友人との接点を持っていただけよう配慮している。施設自体も訪問者歓迎のオープンな姿勢をとっている。	外出の際に友人、知人等に喫茶店や病院のショップで会ったり、また、コンビニの人が声掛けしてくれることもあり、関係を途切れさせないよう支援している。年賀状を出したり、電話の取次ぎも要望があれば対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が助け合い支えあいながら生活できるよう職員が間に入って助言や空気をかえたりして見守りをしている。これは職員の重要な役割だと常に伝えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設等に移る際、ご本人様の細かな情報まで提供し、安心して新しい生活を過ごしていただけるよう努めている。また、施設訪問の際、面会をして交流の継続を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で職員がご本人様との会話の中から希望や要望を引き出し、カンファレンスで発表し必要に応じてプランの検討をしていく。	今は要望を口に出せる利用者が多く、寄り添って過ごす時間や、入浴中、あるいは受診などで職員と利用者が1対1で外出する機会に聞き取り、職員間で共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご本人様、家族様との面談での情報をまとめ、職員全員で情報共有を行なっている。入居後の情報も収集し記録に残し共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録し、一人ひとりの状態、状況の把握に努め、その日の体調や気分によってケアの内容を変更している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスを行い、たえず状況の変化があるのでその都度話し合い、現状に沿ったケアの提供が実践できているよう努める。そのとき出されたサービス内容について介護計画に反映させている。	月に1度、ミーティングやカンファレンスの際に職員から利用者の様子を聞き、変化や家族からの要望も配慮し、介護計画に組み入れている。見直しは入居直後は1ヶ月、基本は3ヵ月ごととし、変化があればその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアプランに記載内容は把握しながら実践し、記録を行なっている。そこで得た情報を基に見直しをかけていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内におけるケアサービスだけでなく各利用者にかかる生活環境や心身機能の状態に応じて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の慰問があり、歌謡ショーや落語、絵手紙等の時間を楽しんでいる。地域の方に畑をお貸しし新鮮な野菜を季節ごとに収穫され、施設へ持ってきていただけるので、食材として利用させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医に行かれる方もみえれば、協力病院に行かれる方もみえる。受診に関しては介助をし主治医との連携を密に行い、急変時迅速に対応している。	協力医も、もともとかかりつけ医も訪問診療ではないため、職員が受診につきそうことが殆どで、結果医師との連携が密となっている。他に訪問歯科、眼科を利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員が在籍していない為、協働することができない状況である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、管理者が迅速に対応し、医療機関、家族と情報交換し連携できるよう努めている。退院後はケアがスムーズに行なえるよう、医療機関と連携は密に行い、入院中は週に1～2回面会へ行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴うアンケートを基に事業所としてできる限りの支援や対応について理解していただいている。しかし、家族の希望も多様であり日々変化してくる為、その都度話し合いで決めている。	入居時には事業所のできる事、できない事、基本的に看取りは行わないことを説明している。重度化した場合は医師の指示を受け、家族や利用者の希望があれば系列の老健や特養を紹介することもできる。医療行為が必要とされない状況で希望があればできる限り事業所での支援を行う。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルは見やすい所へ貼ってあるが、管理者に任せているところがほとんどである。実際の起こった場合に対応できるか不安を抱えている職員が多数いる為、定期的に勉強会を行なう必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が、毎年計画を立てて年2回、昼間と夜間を想定し避難訓練を行い、救命措置、消火訓練等の講習を消防署の協力で実施している。	3月と9月に、消防署立会いのもとで昼間、夜間想定での避難訓練、消火訓練を行っている。今年度は利用者も一緒にAEDの使用方法も学んだ。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日のケアの中で、排泄・入浴時のプライバシーの保護に十分注意して対応している。また、人格を尊重した声掛けにも注意している。施設内の掲示してある写真等も家族様に了承を得ている。	声掛けには特に配慮をしている。居室へ入室の際には必ずノックをしている。排泄支援はさりげなく、を職員間で徹底し心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から、利用者の要望等をくみ取りできるだけ叶えられるよう支援している。意思表示が困難な方には表情等で満足感を得ていただけるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別プランを念頭に置きケアを実践しているが、状況に応じたサービスの提供も必要な為、柔軟に対応している。ご本人のペースに合わせた支援が出来るよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、その日着る洋服をご本人と相談し決めている。男女問わず散髪・髭剃りには気を配り清潔感を大切にしている。出張理美容の利用や地元の美容院へお連れしたりする。要望があれば職員が毛染め等行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時メニューを書き、消毒、おしぼりの用意、テーブル拭きなど利用者の方に役割を決め行っていたりしている。おやつや野菜の皮むき、食器洗い等できる範囲で手伝っていただいている。	系列老健の管理栄養士の作成した献立を参考に、食事を手作りしており、買出しには利用者も一緒に行っている。希望の献立や、季節の料理、手作りおやつなども出され、できることを利用者は手伝っている。喫茶外出などもあり、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態にあわせて、食事形態を変更し、嚥下状態を常に確認している。食事摂取量により毎月の体重測定も行って健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアだけでなく、就寝時に義歯を洗浄し清潔を保持している。基本的には自己にて行っていたりしているが、職員が最終口腔内の確認、介助にて行う場合もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンが違うため職員はこのことについて把握している。オムツ使用の方も尿意便意のない方であっても、トイレ誘導を行いトイレにて排泄していただくよう努めている。常に検討しリハビリパンツから布パンツへ変更等している。	排泄チェック表があり、利用者それぞれの排泄パターンを職員は把握し共有しており、なるべくタイミングを見計らってトイレ誘導をすることで、リハビリパンツの使用量を減らすこともできた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤にて排便コントロールされている方もみえるが、なるべく自然排便ができるよう、乳製品や繊維の多い食材の取り込み、運動等、薬に頼らないように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の一泊おきに入浴をさせていただいているが、毎日の入浴を希望される方や、入浴する時間等、なるべく要望に沿えるよう配慮している。	週に3回ほど入浴している。気候や利用者の気持ちにも配慮し、無理強いせず、声掛けや職員を替えることで拒否のある人も入浴してもらえるよう努めている。状態に応じ、清拭やシャワートイレも活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、昼寝や仮眠がいつでも取れるよう配慮している。夜間寝つけない方には、ホットミルクの提供や会話をしたりして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに処方箋をつづっており、いつでも確認できるようにしてある。服薬の変更等があれば必ず申し送りにて職員に伝達し、周知徹底している。誤薬・飲み忘れがないよう確認を怠らないよう指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の手入れやお手伝い等、利用者の状態に対応できる役割をていきょうしている。定期的に、外食の日を設けて好きなものを食べていただいたり、ドライブ・散歩・ショッピング等外出の時間を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節ごとの外出レクを行っている。スーパーでの買い物等で買い物をさせていただいている。	天気や気候に配慮しながら、広い敷地内の散歩を日課としている。食材の買出しや、受診時の外出では、喫茶コーナーや売店を利用し、気分転換を図っている。桜やコスモスなど季節ごとの花見にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて金銭管理が困難な方がほとんどであるが、持っていないと不安になれる方もみえるため、希望のある方は預かり金の一部を本人管理としている方もみえる。また、買い物時お財布を渡しレジの支払いを本人任せすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方、家族や友人・知人へ電話連絡をしていただいている。会話中はプライバシーの保護の為、席を外すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活時間が長い共有スペースには、皆で協力し作成した作品や、写真等掲示している。	皆が過ごす居間は広く、日当たりがよい。利用者と職員と一緒に作った季節の飾りなどが壁に、玄関にはお雛様なども飾られている。畳コーナーがあり、ベッドではなく床で休みたい時や、友人とくつろぐ際に利用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	暖かい日には利用者様同士、縁側で日向ぼっこをしながら会話を楽しまれる場所や一人で考えたい時間が必要な方には時間場所の提供をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みに制限はしていない。仏壇や寝具、鏡等持ち込んでいる人もいて自宅で過ごされているような空間となるよう考慮している。	造りつけの大きなクローゼットがあり、すっきりとした部屋がいい利用者がいたり、別の利用者は仏壇や、たんす、テレビなど使い慣れたものを持ち込んだり、レクリエーションで作ったものも飾っており、それぞれが落ち着けるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険のない安心して暮らせる環境整備、工夫を常に考えて対応している。		